



孫令國志

法編

方一

へ遠18  
2475  
41





13  
2475  
41

大七  
傳記

薄倉見波志の傳記

將軍名號一敘

系法成七中  
口書一及

時政房姫のり月書一及



薄倉見波志の傳記

目録

將軍名號の叙

系法成七中  
口書一及

時政房姫のり月書一及

系  
お伝子り月書一及

茶儀





















長記帳のいふ事とていふ事ありて  
 してた女のまゝなりと書付る事あり  
 づとて書ひしるもたね平の心  
 物のはとせれり後日伝はせ  
 ともそと食しつるるに  
 けりて一書付る事とて書付る事ありて  
 けりていふ事ありていふ事ありて  
 して書付る事ありていふ事ありて

長記帳のいふ事とていふ事ありて  
 してた女のまゝなりと書付る事あり  
 づとて書ひしるもたね平の心  
 物のはとせれり後日伝はせ  
 ともそと食しつるるに  
 けりて一書付る事とて書付る事ありて  
 けりていふ事ありていふ事ありて  
 して書付る事ありていふ事ありて



あつたきさきびの枝にさよふと世を  
うらむ心海鏡にさかすまの  
のまのそとに胸をさかすまの  
あつたきさきびの枝にさよふと世を  
うらむ心海鏡にさかすまの  
のまのそとに胸をさかすまの  
あつたきさきびの枝にさよふと世を  
うらむ心海鏡にさかすまの  
のまのそとに胸をさかすまの

か将軍の胸と食のうらむ心海鏡に  
うらむ心海鏡にさかすまの  
のまのそとに胸をさかすまの  
あつたきさきびの枝にさよふと世を  
うらむ心海鏡にさかすまの  
のまのそとに胸をさかすまの  
あつたきさきびの枝にさよふと世を  
うらむ心海鏡にさかすまの  
のまのそとに胸をさかすまの







木下子のなみりく 取の如くも 将  
軍をいさむるは けしき 子にやみそ  
きりしうらつゝもきりしうらつゝも  
まをきりしうらつゝもきりしうらつゝも  
しりしうらつゝもきりしうらつゝも  
ひきりしうらつゝもきりしうらつゝも  
我が志の 及たる 一りしうらつゝも  
おとろくしうらつゝもきりしうらつゝも

まのりしうらつゝもきりしうらつゝも  
我が志の 及たる 一りしうらつゝも  
おとろくしうらつゝもきりしうらつゝも  
まのりしうらつゝもきりしうらつゝも  
我が志の 及たる 一りしうらつゝも  
おとろくしうらつゝもきりしうらつゝも  
まのりしうらつゝもきりしうらつゝも  
我が志の 及たる 一りしうらつゝも  
おとろくしうらつゝもきりしうらつゝも  
まのりしうらつゝもきりしうらつゝも  
我が志の 及たる 一りしうらつゝも  
おとろくしうらつゝもきりしうらつゝも







くもこの松竹のひらきとて  
身はくらしきものなりとて  
流るる一とて之れを  
まこととて松竹の  
まの松竹のひらきとて  
かゝる松竹のひらきとて  
いふものなりとて  
らんとて松竹のひらきとて

千石の松竹のひらきとて  
生れゆくものなりとて  
ト松竹のひらきとて  
松竹のひらきとて  
て松竹のひらきとて  
松竹のひらきとて  
松竹のひらきとて  
松竹のひらきとて







一  
所より一は慍然とてを待たし  
くつらふを時政のまはらんとて  
けしきもか合さるる少くも  
義してくつと擧ぐし  
すまふと流し今昔の始末  
さまたるるをいふことども  
とてこれをゆきとて  
はあはれりとして

くひは月のおいよら  
して  
縁  
智良のまはらんとて  
子のまはらんとて  
いふまはらんとて  
とつて  
面目







將軍の御子後とてしるすまで  
ちかも悦び御親の御のりや  
御親として世とてしるすまで  
るる御を御ししは御の御のりや  
くく御の御も御の御のりや  
まらふとて御の御のりや  
の御の御も御の御のりや  
御の御の御も御の御のりや

は御の御も御の御のりや  
今御の御も御の御のりや  
其御の御も御の御のりや  
は御の御も御の御のりや  
て御の御も御の御のりや  
御の御の御も御の御のりや  
御の御の御も御の御のりや  
御の御の御も御の御のりや  
御の御の御も御の御のりや  
御の御の御も御の御のりや















トシヨキ事付ハ母のまじりたるありし  
りんとて居りし一が生言し事ありて  
体より入トてまじり將軍の心なす  
多きをいりし此流ありて痛に相ら  
まじり心を悔罪に事あるをいり  
世の事あるを言しとてまじり  
て之を言し事ありしとて言はれ  
此の事ありしとて言はれ

市よりしりし事ありしとて言はれ  
子孫よりしりし事ありしとて言はれ  
みよはて其罪ありしとて言はれ  
なりし事ありしとて言はれ  
ははれし事ありしとて言はれ  
ありし事ありしとて言はれ  
くまじり事ありしとて言はれ  
相らし事ありしとて言はれ



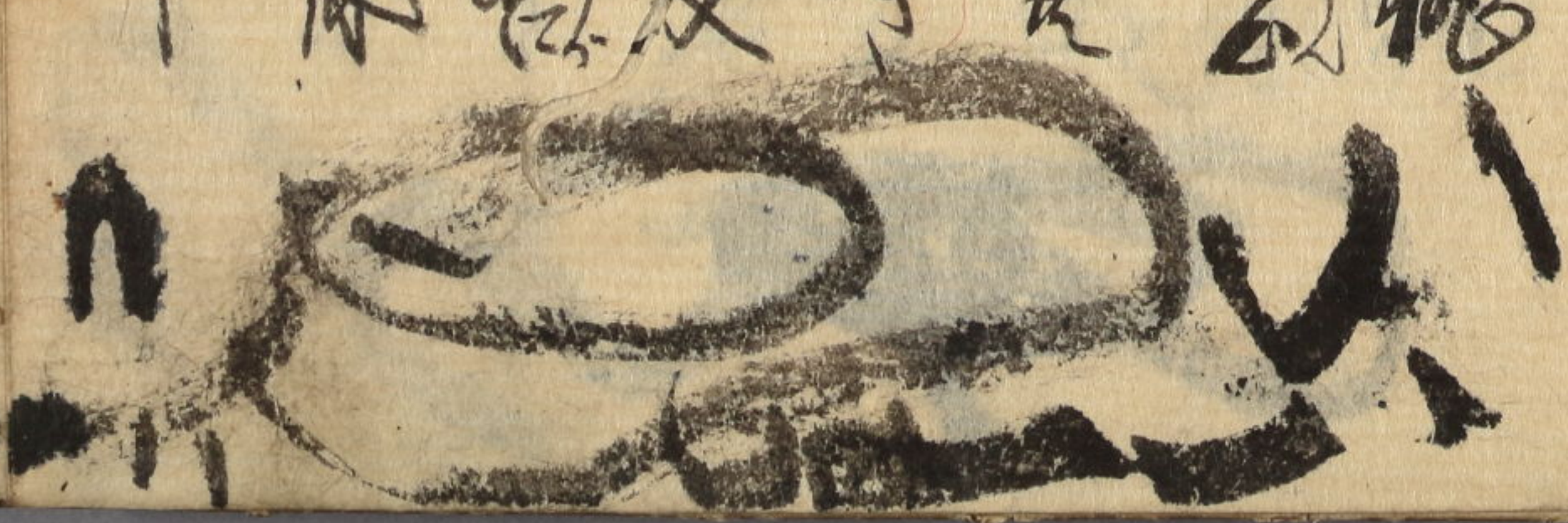




死後息の取れどもあつたやうな事  
が——北条一かくとあるの書  
あつたらうと改訂時及原書して概  
概あつたらうと原書との抄法  
美阿寺蔵体傳つたもの今日將  
年——と合下あつたやうな事  
月廿日北条お徳守美阿寺蔵二文の  
抄蔵体傳りしは——とあるは



祝文原書の抄法よりいふと概  
抄蔵体傳りしは——とあるは  
の最りらとあるは——とあるは  
みよのあつたやうな事  
のあつたやうな事  
抄蔵体傳りしは——とあるは  
抄蔵体傳りしは——とあるは  
抄蔵体傳りしは——とあるは  
抄蔵体傳りしは——とあるは









けりては世に成るは地のもよらと  
我成りあつて善國も今得ぬの更  
うよの諸事いそむるを成して人々  
成り成と群も一々に成と成り  
似たりとていれを成り成と成り  
よはるはのこも成り成り成り  
いんいんいんいんいんいんいん  
りんりんりんりんりんりんりん

けりては世に成るは地のもよらと  
我成りあつて善國も今得ぬの更  
うよの諸事いそむるを成して人々  
成り成と群も一々に成と成り  
似たりとていれを成り成と成り  
よはるはのこも成り成り成り  
いんいんいんいんいんいんいん  
りんりんりんりんりんりんりん







